

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 2 区分
【発行日】平成20年8月7日(2008.8.7)

【公開番号】特開2005-157287(P2005-157287A)
【公開日】平成17年6月16日(2005.6.16)
【年通号数】公開・登録公報2005-023
【出願番号】特願2004-231013(P2004-231013)
【国際特許分類】

G 1 0 H 1/00 (2006.01)

【F I】

G 1 0 H 1/00 1 0 2 Z

【手続補正書】

【提出日】平成20年6月20日(2008.6.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 5】

演奏情報を生成するためのプログラムであって、コンピュータに、
演奏操作に応じて動かされる移動部材の移動状態を連続的に検出する検出手順と、
前記検出手順における検出出力に基づき生成される前記移動部材の移動状態を示すデータを含む演奏情報であって、前記移動部材の所定の動作範囲内での移動状態を示すデータが第 1 の分解能で記述され、前記移動部材の前記所定の動作範囲外での移動状態を示すデータが前記第 1 の分解能よりも粗い第 2 の分解能で記述されたものを生成する演奏情報生成手順と
を実行させるためのプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 6】

演奏情報を記録するためのプログラムであって、コンピュータに、
演奏操作に応じて動かされる移動部材の移動状態を連続的に検出する検出手順と、
前記検出手順における検出出力に基づき生成される前記移動部材の移動状態を示すデータを含む演奏情報であって、前記移動部材の所定の動作範囲内での移動状態を示すデータが第 1 の分解能で記述され、前記移動部材の前記所定の動作範囲外での移動状態を示すデータが前記第 1 の分解能よりも粗い第 2 の分解能で記述されたものを生成する演奏情報生成手順と、
前記演奏情報生成手順において生成された演奏情報を記憶する手順と
を実行させるためのプログラム。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

記憶装置 260 において、生成した演奏情報を記録するためのサンプリング周期は、記憶装置 260 側で任意に選択できるものとしてよい。なお、本実施例においては、前記演奏情報の生成・記録のためのサンプリング周期は任意の値で固定されるものとする。また、記憶装置 260 において、全ての鍵 130 及び／又はハンマ 142 についての該演奏情報を記録するのみならず、ユーザが該演奏情報のうち記録すべきノート番号を任意に選択できるようにし、該選択されたノート番号に対応する鍵及び／又はハンマについてのみ記録できるようにしてもよい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0058

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0058】

拡張データ $[Bn \quad 10 \quad yy]$ 及び拡張データ $[Bn \quad 11 \quad yy]$ による鍵位置の記述能力の具体的な一例について、図 11 を参照して述べる。

まず、第 1 の分解能（1 デジタル = $0.225 / 128 \text{ mm}$ ）の場合、正方向での相対位置を表す拡張データ $[Bn \quad 10 \quad yy]$ では、対応する位置データが表す位置から $+0 \text{ mm}$ の位置を「 $yy = 00h$ 」で表現でき、また、対応する位置データが表す位置から $+127 * 0.225 / 128 \text{ mm} = +0.2232421875 \text{ mm}$ の位置を「 $yy = 7Fh$ 」により表現できる。従って、拡張データ $[Bn \quad 10 \quad yy]$ は、第 1 の分解能（1 デジタル = $0.225 / 128 \text{ mm}$ ）の場合、対応する位置データ $[An \quad kk \quad xx]$ が表す位置から正方向に最大 0.2232421875 mm の範囲の鍵位置を、 $0.225 / 128 \text{ mm}$ 単位の精度で表現することができる。一方、負方向での相対位置を表す拡張データ $[Bn \quad 11 \quad yy]$ では、対応する位置データが表す位置から -0 mm の位置を「 $yy = 00h$ 」で表現でき、また、対応する位置データが表す位置から $-127 * 0.225 / 128 \text{ mm} = -0.2232421875 \text{ mm}$ の位置を「 $yy = 7Fh$ 」により表現できる。従って、拡張データ $[Bn \quad 11 \quad yy]$ は、第 1 の分解能（1 デジタル = $0.225 / 128 \text{ mm}$ ）の場合、対応する位置データ $[An \quad kk \quad xx]$ が表す位置から負方向に最小 -0.2232421875 mm の範囲の鍵位置を、 $0.225 / 128 \text{ mm}$ 単位の精度で表現することができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0059】

第 2 の分解能（1 デジタル = $0.225 / 8 \text{ mm}$ ）の場合、正方向での相対位置を表す拡張データ $[Bn \quad 10 \quad yy]$ では、対応する位置データが表す位置（ $xx = 00h$ 又は $30h$ ）から $+0 \text{ mm}$ の位置を「 $yy = 00h$ 」で表現でき、また、対応する位置データが表す位置（ $xx = 00h$ 又は $30h$ ）から $+127 * 0.225 / 8 \text{ mm} = +3.571875 \text{ mm}$ の位置を「 $yy = 7Fh$ 」により表現できる。従って、拡張データ $[Bn \quad 10 \quad yy]$ は、第 2 の分解能（1 デジタル = $0.225 / 8 \text{ mm}$ ）により、鍵 130 のレスト位置又はエンド側の最大位置（ $xx = 00h$ 又は $30h$ ）から正方向に最大 $+3.571875 \text{ mm}$ の範囲の鍵位置を、データ記述マージンとして、 $0.225 / 8 \text{ mm}$ 単位の精度で表現することができる。一方、負方向での相対位置を表す拡張データ $[Bn \quad 11 \quad yy]$ では、対応する位置データが表す位置（ $xx = 00h$ 又は $30h$ ）から -0 mm の位置を「 $yy = 00h$ 」で表現でき、また、対応する位置データが表す位置（ $xx = 00h$ 又は $30h$ ）から $-127 * 0.225 / 8 \text{ mm} = -3.571875 \text{ mm}$ の位置を「 $yy = 7Fh$ 」により表現できる。従って、拡張データ $[Bn \quad 11 \quad yy]$ は、第 2 の分解能（1 デジタル = $0.225 / 8 \text{ mm}$ ）により、鍵

1 3 0 のレスト位置又はエンド側の最大位置 ($x x = 0 0 h$ 又は $3 0 h$) から負方向に最小 -3.571875 mm の範囲の鍵位置を、データ記述マージンとして、0.225 / 8 mm 単位の精度で表現することができる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】図面

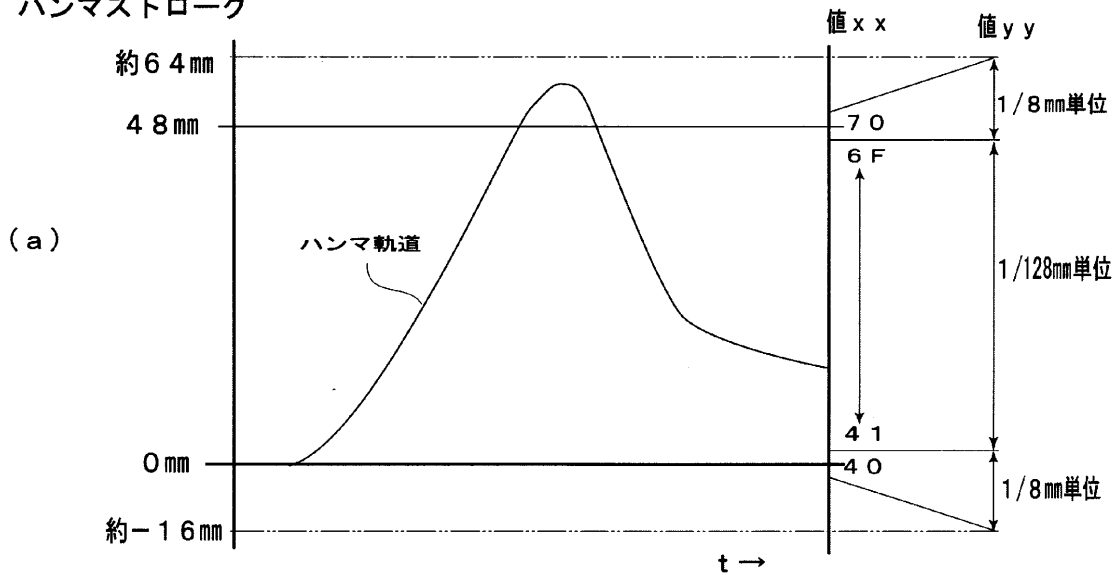
【補正対象項目名】図 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 0】

ハンマストローク



鍵ストローク

